

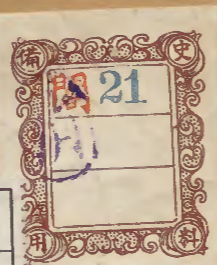
勢陽五鈴遺響

朝明郡

八

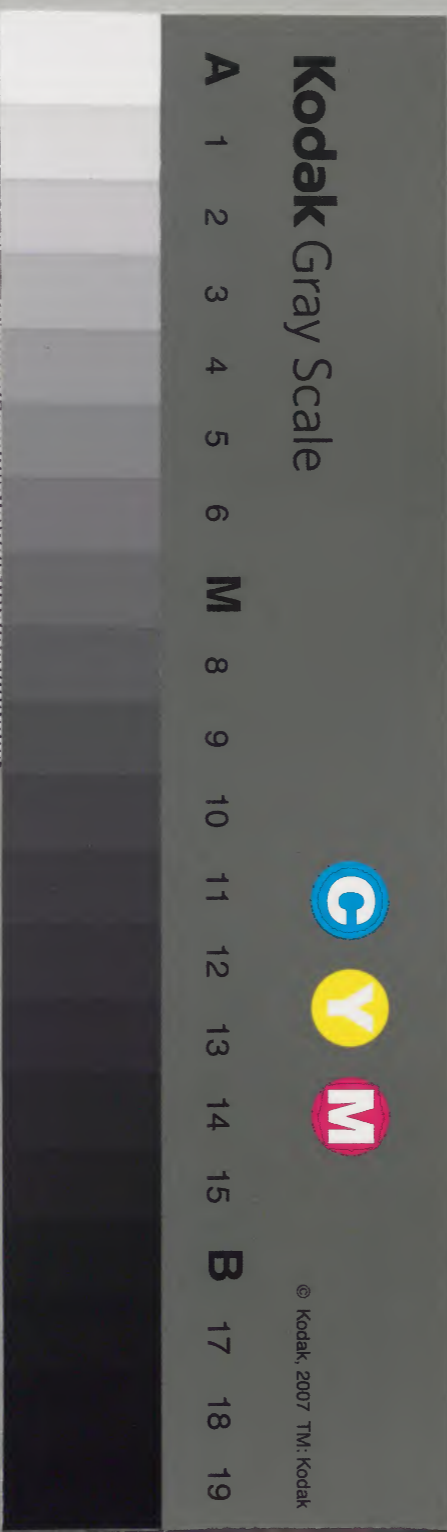
和書門			
二九〇一九			
四〇	冊	架	函
冊	架	函	號

庫文閣内		
和書		
二九〇一九		
三函	冊	架
冊	架	函



内閣文庫		
番號	和	29019
冊數	40	(8)
函號	172	310

内閣文庫



一 禮部五銜通學朝明都卷之

大英知 水運 長 下 山 間 以 民 俗 新 於 保 也

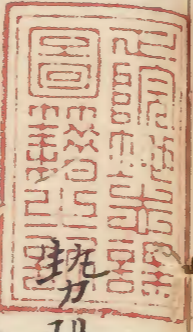
智 上 朝 之 大 英 知 三 官 前 官 解 郎 志 知 可 志 也

同 少 大 英 知 三 官 前 官 解 郎 志 知 可 志 也

久 留 信 不 到 上 官 今 在 存 也 則 訓 罰 可 也

起 也 既 本 心 之 然 矣 以 此 各 又 習 得 一

大 英 知 三 官 前 官 解 郎 志 知 可 志 也

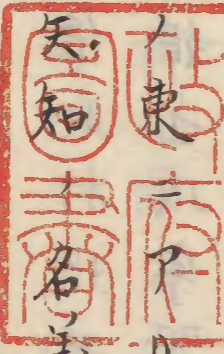


陽五鈴遺郷朝明郡卷之二

丙一〇七二五號

大矢知 平津

智ト訓ス大



知ト同ク未知難シ猶後考スヘシ

村中ニ久留倍ト云小字今ニ存セリ訓霸ハ此

邑ヨリ起レ凡ナルヘシ然レハ旧名久留倍ニ

後ニ大矢知ニ轉セシモ知ヘカラス孰上世

ヨリノ旧地ナリ○神鳳抄大矢智御厨十丁ト

載タリ○属邑山副本邑ノ北ニアリ飯野郡同

名アリ各今山添ニ作レリ

石東名領ナリ

正税五百三十三

長倉神社

同処ニアリ 鶴神社ヨリ 乾ニ去コト

六町余 經歷スルニ本郡 富田村 鳥出神社ヨリ

西富田川ヲ西ニ去リ 川屋ノ隄ヲ 歴テ本邑ニ

至リ 南ノ山上ニ坐ス 土俗ハ 幡宮ト称ス 本邑

ノ産社ナリ 度會延經 神名帳考證ニ 長倉神

社 宇賀御魂神 為秋陰靈 称豊宇賀賣神子 多氣

郡根倉神社 同長訓 奈稻也 子根倉 音通ス 今茂

福村ノ西地 称稻荷 有稻荷神社 是乎 倭名抄

云 訓霸久留倍 此村北 大矢知村中 称久留倍 久

留ハ倉也 倍姫也 以宇賀賣名 為郷名云云 度

會正身 神名帳 再考證 長倉神社ヲサクラト訓

スハシ 意ハヲサキムラ 干少前ノヲサキムラ

ニ對メ 小前村ト云 木さノ切 阿ナル 故阿倉ト

呼フ 其地ノ水ヲ 阿倉川ト云 今ハ阿倉川村ト

呼ヘリ 祀神前ニ 同シ 度會郡ニ 在ル 櫻大カ 自

神社ノ 櫻モ 前村ニテ 隣ル 村ニ 尾崎村ノ 名ヲ

ルニ 同シ 奇ト云ヘシ 尾崎ハ 小前ノ 假字ナリ

云云 親毅考フルニ 延經考證ハ 長倉神社ノ

名ニ 拠テ 長ハ 奈ノ 假字 稻字 稻ノ 略ナリ 稻倉

ト云 義ニメ 根倉ト 音通シ 多氣郡 根倉神社 祭

神字 賀魂神ニ 相同ク 即 稻荷神ニメ 茂福村ノ

西 稻荷社アルヲ 以テ 此配ス ナルヘシト 注セ

リ 正身 再考證ハ 長倉ヲヲサクラト訓ス 即ヲ

サキ村ニメ 前ノ 堰前ニ 對メ 此ヲ 小前ト云 木

さノ切阿ナレハ阿倉ナルヘシト解ス愚按ス
ルニ茂福ノ坤位ニ稻荷村アリ稻荷明神ヲ祈
ル祠アリ故ニ村ノ名ニ称スナリ即大矢知ハ
訓霸郷ニシテ此隣比ノ村落各隸属ス処ナレハ
宇賀賣ニ拠テ郷名トスト云是ニ似テ未詳ト
ス久留倍ハ本邑ノ小字ニアリテ別ニ村ハナ
シ古昔訓霸ノ郷名ノ起ル処ニシテ桑名村ノ名
アリテ桑名郡名ノ起ルカコトシ然レハ大矢
知ハ本邑ニシテ稻荷ハ後ニ所ナリ訓霸ノ名義
モ久留ハ倉ニシテ倍ハ貞辨ノ例ニテ姫ト云義
ニテ倉姫ノ宇賀賣ヨリ名処ト牽強ストイ
ヘ氏倉稻ノ名ニ稻ノ字脱セリ至當トハ謂難

シ猶稻荷上世ヨリアル処定カナラヌ又正身
再考證ハ長ヲ木ニト訓シ尾崎ハ假字違ハス
木ノ切阿ト云時ハ長尾ノ假字ニ合ハス又
長ヲ式牒ノ神社ニトサト訓ス例ナシ津長長
瀬長谷神社各ナラト訓ス故ニ長倉モナラク
ラト訓ヘキナリ然レハ阿倉ニ切ス義ナシ堰
前堰後ハ前ノ櫻神社并後神社條ニ注セリ阿
倉川ハ三重郡ニシテ地モ隔リ佐倉ト遠ニ遠キ
トイヘ氏度會郡小朝熊神社櫻大刀自神ノ坐
ス処ト隣比ス楠部村尾崎トハ櫻大刀自ノ名
ニ拠テ前村トシ尾崎ハ小前ニシテ前後之義ト
例ストイヘ氏朝熊村ト楠部村ハ地モ隔テ楠

部ヨリ朝熊山ニ登ル峯ノ尾崎十ニ故ニ土俗
小字ニ呼フ処ニノ前後ノ例ニハ非ス奇トス
ルニ足ラス敢テ拘ルヘキナシ妄ニ牽合スル
処ナリ長倉ノ名義ハ訓霸ニ名クニ同ク倉部
ニメ古昔郡家ノ穀倉ヲ建置セシ所ノ名トモ
謂ヘシ臆断トイヘ凡本郡ノ此倉アル処ニメ
大矢知ハ大宅ノ轉トモ聞エタリ竜照近神名
帳考正久留倍中大矢知村ノ産神ナルヘシト
云勢陽雜記拾遺ハ京部村ニ所在トス此ハ長
谷神社ヲ混セリ式社案内記大矢知村南六丁
小山ノ上ニアリ從フヘシ新霸郷ノ總社ト称
メ足レリ

○青木山光明齋寺跡 長倉神社ヨリ南ニ丁
許山谷ヲ踰テ富士権現ト称スアリ是櫻神社
ニメ後條ニ詳セリ其地ヨリ俗ニ錢亀松ト云
古松老樹一株アリ左ニ望テ田圃ヲ歴ル処ノ
小字阿弥陀堂ト称ス地アリ遺址ニメ今ハ廢
セリ 一身田高田專修寺正統傳云寛正元庚
申年高田專修寺ハ真惠上人ノ開基ナリ江州
戸津濱妙林寺ヨリ此処ニ移リ一寺ヲ建弘通
セントス薄地ニメ佛法繁昌ノ地ニ非ストメ
歸依ノ門弟ニ宝物等ヲ附属メ三重郡北小松
村ノ中山ニ迂リ中山寺ヲ建立シ毎歲九月月
見ノ會アリシ処ヲ月見山ト称ス今富田村正

泉寺ニ所在ノ光明品ハ中山寺ノ遺物ナリ此
時鈴鹿郡原村ノ内吉尾ニ一寺ヲ建立ノ并帶
ス今考ルニ是一身田專修寺ノ創建ヨリ以前
ナリ其後元文中此廢寺ノ跡ヨリ村童等室
鐸ニ口ヲ土中ヨリ鑿出セリ今東名郡素名府
萱町西方寺ノ什費トス

○大矢知城跡 同処ニアリ南部遠江守經頼
居城ス富田村南部氏ノ分家ナリ永祿十一年
十月織田信長ノ為ニ敗軍ノ滅亡ス城疊是ヨ
リ廢メ今ニ至リ其威儀ハ遺レリ

式内櫻神社 属邑山添村ニアリ余經歷スルニ
本邑長倉神社ヨリ南ニ去畢ニ町許溪谷ヲ踰

テ山傍ニ坐ス土俗富士権現ト称ス 度會延
經神名帳考證櫻神社木花開耶姬命在阿倉川
村今属三重郡阿古佐通音當埋繩村之南云云
度會正身神名帳再考證櫻神社次井後神社ニ
對ス櫻ハ假字ニテサキムラナリキハ切ク
井後ノ井ハ堰ニテ堰前堰後村ノ神社ト云ナ
リ社地佐倉村ニアリ阿倉川ノ字モ此類語ナ
リ 親殺考ルニ延經考證櫻神社ノ名ニ拠テ
木花開耶姬命ヲ祭トシ阿倉川村ニアリ阿佐
通音ナル故阿倉ハサクラノ轉ニメ今三重郡
ニ属ストイヘ凡埋繩ノ南ニ當レリト解セリ
然レ凡埋繩ヨリ南行程二里許ニ隔リ今古誤

ルヘキニ非ス又櫻ヲ阿倉下通音トイヘ氏古
書ニ村名ノ轉ス義ナシ神鳳抄内宮飽良河御
厨ノ地ナリ中世櫻ヲ地名ニ非ス今阿倉川ト
轉ストイヘ氏音ハ同シ三重郡佐倉佐倉一色
ノ二邑アリ式社案内記ニ櫻神社ノ名ニ拠テ
佐倉村春日明神ノ社域トス然レ氏鈴鹿郡ニ
其地方通ク本郡ニ遠シ古昔ノ郡界ノ今ト差
ヘルニモアルヘカラス今方位ヲ閱メ古ヲ推
ス時ハ明ナルヘシ又正身再考證櫻ノ名義ハ
前村ニモキビヲ反切ノクニ反ル故サくらニ
轉ス又井後神社ノ井ハ堰ニテ堰ノ前村堰ノ
後村ニモ前村井後ヲ以テ神社ニ名トシ社地

ハさくらニ通メ佐倉村ニアリ佐倉阿倉ハ語
類ニモ前後ノコトキ證アルニ如スト排斥ノ
注セリ然レ佐倉村モ三重郡ニモ本郡ニ非ス
郡界ニアル時ハ二郡ノ混スルアリ又古今差
フトイヘ氏犬牙ノ地ニ非レハ例ナシ今井後
神社ハ本郡柿村ニアリ谷相從ヘリ水田河渠
ノ地ニモ井後堰後ノ名ハ適ヘリ佐倉ハ井前
ト前後ニアルヘキ方位ニ非ス遼遠ニモ名義
ヲ叙スルニ適ヒ難シ此ニ堰ノ前村ノ名ニ拠
テ其堰埭ヲ宰ルカ故ニ埭安姫神ヲ祭レリト
スニ考證各自己ノ見解ニモ其地方事跡ヲ不
知ノ神社及祭神ヲ定ル故ニ紙上ノ論ニモ異

同アリ其真ヲ得ルハ方位社域傳説等ヲ閱ノ
後證トスヘキナリ臆断ニシテ後世ヲ惑ハスニ
至ルハ遺憾ナリト謂ヘシ照近神名帳考正社
地未考トス式社案内記考證ニ從テ佐倉村春
日明神ノ社域祭神木花間耶姬命ニ定ム 勢
陽雜記拾遺及勢陽俚諺山副村ニアリト云今
地方ヲ閱メ知レリ本邑長倉神社ヨリ北ノ溪
間ヲ歷テ南ニ去事ニ丁計照近考正ニ誤ル處
ノ布自神社トス方俗富士権現ト稱ス地ヲ櫻
谷ト云今憶フニ布自神社ニ誤テ宛ルトイヘ
氏古昔ヨリ名ノ著キ處ニシテ其地名ニ拠テ
富士権現ヲ後世奉祀スルナルヘシ然レハ考

證櫻神社ニ拠テ木花間耶比賣命ヲ牽強スル
ニ似リトイヘ氏阿倉川ハ差ヘリ此地ニ櫻神
社ヲ所置ハ真ナルヘシ三重郡智積村椿岸神
社祠官近藤丹後守ニ問フニ佐倉村櫻神社ハ
佐倉寺ノ鎮守ニシテ春日明神ヲ祭レリ櫻神社
ニ非スト答タリ猶一社アリ牛頭天王ヲ祭ル
ト云云 又勢陽雜記拾遺撰者ハ本郡松本村
古屋久吾力述ル處ニシテ近邑ノ人具所傳ノ真
ナルヲ存スルモ知ヘカラス故ニ相從テ前輩
ノ謬傳ハ悉ク廢メ此ニ雷同スルモノナリ布
自神社ノ前説ノ可否ハ山村布自神社條ニ併
考ヘシ

河北 山添ノ良位ニアリ平林ノ中ニ民居ス朝
明川ノ南ニノ河北ノ名解シ難シ富田川ノ北
ニ方ル故ニ名クナルヘシ三重郡同名アリ方
俗混易キ故此処ヲ北ノ河北ト称ノ分テリ○
正税二百六十七石粟名領ナリ

廣永 山村ノ北ニアリ朝明川ノ北屋ニ民居ス
北呂奈賀ト訓ス旧ハ弘永ト書タリ後ニ廣長
或廣永ニ作レリ○正税八百三十石粟名領ナ
リ○廣永新田属邑アリ明曆圖ニ不載勢陽雜
記同シ明曆中ヨリ後ニ所置ナルヘシ○神鳳
抄弘永御厨六十町又古昔總積庄ト称ス是ナ
リ○東鑑第七文治三年四月廿九月條總積庄

預所式部大夫維度ト載ス。 式内總積神社 同処小字川島ト云処ニアリ方
俗川嶋明神ト称ス前輩耳利神社ニ填ツ非ナ
リ後條ニ詳ニス 度會延經神名帳考證總積
神社旧事記曰天水口宿祢命總積神祖出石心
命子在保々村上保總積之畧言下保祝之義子
殖粟神同種云云 度會正身神名帳再考證總
積神社神鳳抄保々御厨トアリ疑クハ積當作
穗然氏保々村ノ名モ穗ヲ積ムノ御厨ヨリ出
タレハ同義ナルヘシ祀神倉稻麩今保々村ニ
アリ云云 親毅考凡ニ延經考證ニ總積ノ名
ニ拠テ總積臣ノ祖出石心命ノ子大水口宿祢

命ヲ旧事記ニ拠リ奉祀トス猶保々村ニアリ
保々ノ名義ハ上ハ穂積ヲ畧ノ保ニ作り下ハ
祝ノ字ホキト訓スルヲ保ノ約トスルト云十
リ各従ヒ難シ穂積ノ名ハ東鑑ニ所載穂積庄
ハ即本邑ニシテ神鳳抄弘永御厨六十町文神宮
領古昔ヨリ附スル地ナルニ拠テ穂積ト稻田
ノ在ル義ニシテ後世ニ穂積庄ヲ所置ナリ其庄
其保ト称スルハ鎌倉治世ノ時ヨリ多ク諸国
ニ称スルニシテ東鑑第五十二文永二年三月
五日條ニ鎌倉中被止散在町屋等被免九箇所
又堀上家前大路造屋同停止之具可相觸保々
之旨今日被仰付于地奉行々等小野沢左近大

夫入道也其餘保ノ称若干ナリ前号保々市場
ノ條ニ詳ニス併考ヘシ然レハ此近邑ニ其保
其保ト多アリシヲ後ニ畧メ保々ト云ナリ穂
積ノ名ハ穂祝ノ上下ヲ畧約スト云ニ非ス殊
ニ此神社ハ保々郷ニ坐スルニ非ス猶保々ト
ノニ称ス村邑ナシ保々ハ総名ニシテ市場田村
小牧中野等ニ別ナリニ考證ニ保々ハ一邑ノ
如ク作ルハ臆度ニシテ上件ノ注解各荒唐ナリ
従フヘカラス正身再考證ニ積ヲ穂ニ作り穂
々ト連テ保々ノ名ニ適ヒ保々ハ神鳳抄保保
御厨アルニ拠テ穂ヲ積ムノ御厨ノ名ヨリ起
レリト云ハ前考證ノ穂祝ヲ排セントス例ノ

僻見ヨリ云トイヘ氏保庄ハ古昔ヨリ所稱ヲ
不知ノ孟浪ノ言ヲ祭ノ後人ヲ誣ルハ甚非十
リ又大水口宿祢命ヲ奉祀ト云モ德積臣祖夕
ルヲ奉タル処ナリ此神社ハ德積庄ニ坐ス地
名ニ拠時ハ德積氏ノ抱ルヘキニ非ス式社案
内記ニ饒速日命ヲ祭ルト云ハ姓氏録德積連
者饒速日命之後也ト云ク此文ニ拠テ定ムル
ナリ是德積臣ノ所由ナキニ此神ヲ奉配モ非
トスヘシ再考證祭神倉稻龜ト云ハ德積御厨
ニ拠テ内宮御稻御倉ニ宇賀御龜命ヲ奉祀ス
ルト云ニ拠テ云ルハ稍ク當レリトスヘシ然
モ德積ノ名義ヲ不知ノ祭神ヲ配スルモ臆度

ナリ是否ヲ知ラス式社案内記勢陽俚諺ハ
德積神社ハ田口村アリ此処ハ耳利神社ヲ祭
ル処トス田口德積ノ名義ヲ不鮮ノ此奉ニ及
ヘリ各從ヒ難シ故ニ其地方ヲ闡メ神社ノ所
坐ヲ定ムヘシ勢陽雜記拾遺本邑ニ坐スル
ト云神鳳徵古録ニ河島ト云ヘル処ニ坐ス
十七村ノ總社ナリ三重郡ニ河島村アリ其地
ニ非ス同名ナリ此河嶋ハ本邑ノ小字ニシテ廣
永ハ德積左弘永ノ古券及旧昔ノ田文アリト
云本社ハ近邑ノ民崇敬ノ川島明神ト稱シ祭
祀スル処ナリ勢陽雜記拾遺及神鳳徵古録ノ
作者松本村古屋久吾常ニ話スルニ此近隣

ノ民十ルヲ以テ證トスヘシ久吾カ傳ハ京師
伴蒿蹊續近世畸人傳ニ粗載タリ從フヘシ

◎廣永砦址 同処ニアリ永禄中横瀬勝五郎

居住ス織田信長ノ為ニ滅亡ノ廢セリ萱生伊

坂城ト同時ニ滅ス処ナリ

埋繩 廣永ノ東ニアリ山間ニ傍テ朝明川ノ北

ニ民居ス宇豆奈波ト訓ス旧名ハ宇頭尾移田

神社ノ移田ヲ轉訛ノ宇頭奈波ト称シ埋繩ト

作レリト云ハシ 正税ニ百八十二石桑名領

ナリ 神鳳抄宇頭尾御園内宮一石八斗 一本
宇治

尾四町三
反ニ作ル 式内移田神社 同処ニアリ鶴村井後神社ヨリ

乾位十町ニ坐ス土俗牛頭天王ト称ス此社頭

ノ西ニ八幡宮アリ混スヘカラス 度會延經

神名帳考證移田神社大己貴命亦曰顯国玉神

牛頭同訓在茂福村称牛頭天王社此乎茂貴同

訓福祝也 度會正身神名帳再考證移田神社

名義ハ苗代田ノ謂ニシテ此ニ坐ノ彼処ニ移シ

蟠ルニ因ルナリ祀神稻灵今ノ社地理繩村ハ

ウツシナヘノ義ニテ志ヲ畧シヘノ用ハはナ

リ 親毅考ニ延經考證ハ移田ノ名義ニ拠テ

大己貴命一名顯国玉神ト云ニ從ヒ同訓ナリ

カ故ニ此神ヲ奉祀トス又茂福村ニ坐スト云

ハ茂ト貴ノ字モモ古通音同訓福ハ祝ス

ルノ義ニノ村名ニ神名大己貴ノ符合スル扱
テ定ルナリト注セリ正身再考證ハ移田ハ苗
代田ニシテ此ニ生ス稲苗ヲ本田ニ移シ殖ルノ
意ヲ撫テ祭神稲矣ナリトシ今ノ埋繩ノ名ハ
移シ苗ノ義ニテウツシノ志ヲ畧シ苗ノハ
ハニ通音ニシテ活ク故ニ即ウツシ苗ノ義ナル
故ニ此埋繩ニ祭ルト叙セリ然レモ考證ノ所
言大己貴命ノ別名顯国玉ニ扱テ移ノ字ノ叙
義ハ適ヘリトイヘ凡田ヲ名クルニ扱レハ顯
国玉ノ用ナシ又茂ノ貴ニ通シ福ハ祝ノ義ト
云モ牽強ニシテ茂福ノ名義ハ後ニ辨セリ正身
再考證ハ移田ノ名義ハ稲苗ヲ移シ載ルニ因

リ地名埋繩ハ移苗ノ畧約ナルヲ以稲靈ヲ祀
ルト云各妄ナリ茂福ハ伊勢軍記ニ持福ニ作
リ神鳳抄ニハ茂福名ノ神田アリ茂福ヲ旧名
トスヘキハ餘吾將軍平惟茂ノ後孫歷代居住
ノ永祿年中朝倉下野守平茂盛ニ至テ滅亡ス
故ニ惟茂ノ後裔繁茂ノ榮福ノ義ニ扱テ名ク
伊勢軍記ニ持福家ト誤リ作レリ然ルハ大
己貴神ノ名ニ因テ村名ニ号スル処ニ非ス博
ク稗官小史ト云ヘ凡闕ノ知ヘシ其移田ノ名
ニ扱テ考ルニ埋繩ノ隣邑繩生村ニ苗代神社
アリ然レハ苗代ニ准メ移田ノ名ヲ古昔ハ用
タルナレハ二社同列ノ神社ナリ又埋繩

ノ名ハ旧ト宇頭尾ト云是移田ノ轉訛ナリ或
ハ埋繩繩主ニ邑ニ繩ヲ名トスルモ義アリ後
糸繩生村ニ解セリ併考ヘシ 背書国誌古屋
草紙及式社案内記等祭神植安比賣命トス勢
陽雜記拾遺嶋田村ニ在トス負辨郡ニ属ス然
レモ其地理繩ニ通シトイヘモ證ナシ各非ト
スヘシ

繩生 埋繩ノ良位小向ノ東町屋川ノ南屋ニ民
居ス奈遠布ト訓ス或土俗奈遠ト云繩生ノ名
義ハ旧名金網ト称ス今轉ノ繩生ト名ク古昔
金網駅ニノ延暦天曆ノ間尾張国ニ涉ル渡口
ナリ後世東名府ニ移住ノ今三崎ヨリ熱田宮

駅ニ轉ノ東街道ノ駅路トナリテ沿革セリ故
ニ負辨川ノ下流ヲ町屋川ト称スルハ金網ノ
駅舎町屋ノアリシヲ以テ遺名セリ然ラサレ
ハ東名坊間ニ遠ク大川ノ傍ニノ町屋 名ア
ルヘキニ非ス今ノ繩生ハ本邑ハ負辨郡金井
ヨリ移ノ出里ナリ金網ノ名義モ金井ニ通キ
故ノ類名ナルヘシ 神鳳抄金網御厨ニ宮各
三石十五町 外宮神領目錄金網御厨外領三
石三斗内六九十二壹石一斗宛ト載タリ 正
税千八十五石東名領ナリ

式内苗代神社 同処ニアリ東街道ヨリ西一丁
許小山ノ半腹ニ坐ス方俗富士権現ト称ス或

天神氏云 度會延經神名帳考證苗代神社春
靈穀神今云繩生村當稻荷村之北按繩生苗言
近依祭苗靈有此名歟 度會正身神名帳再考
證苗代神社前云移田ト同シ越田ニ對シ移
田ノ名アリ是ハ直ニ苗代ト云ナリ祀神稚産
靈社地繩生村ニ在苗生ハノ義ナリペノ用ハ
ナリ云云 親穀考ルニ考證ニ苗代神社ノ名
ニ拠テ苗ハ春ノ靈穀神ヲ奉祀スル処ト云繩
ノ訓苗ト音近キノ故ニ穀苗ノ神ヲ祭ルニ拠
テ繩生ノ名起レリトスル歟ト解セリ愚案ニ
繩生ノ名ハ神代ノ苗代ト云ヨリ出タルニ非
ス旧名ハ移田ニテモアルヘシ後ニ金網ノ名

起リ衆名ニ移リ廢セシ後ニ金井ヨリ移住ノ
繩生ト称スルナレハ延喜延長ノ比ニ繩生ノ
名ナキハ知レリ然レハ移田ハ穀靈ノ神ヲ祭
レルニ拠テ名ク證モナシ穀靈ニ拠テ繩生ノ
起レルニモ非ス金網ノ旧名ニ拠テ細繩ノ名
ヲ設シト聞ユタリ各臆説ナリ再考證ハ直ニ
苗代神社ト云ニ拠テ稲苗ハ稚キ物故ニ稚産
靈神ヲ奉強シ繩生ノ名ハ苗ハ工ノ義ニシテ繩
生ト名ク起リト云意ヲ注セリ前考證ノ穀靈
ヲ排ス故ニ稚産靈ヲ配シ村名ノ繩生ハ稲苗
ハ工ルノ義ト叙スルモ金網ノ旧名ヲ不知カ
故ノ誤ナリ神鳳抄金網御厨ノ文モ其祠官ニ

ノ不知ハ怪ムヘシ各從ヒ難シト憶ヘリ照近
神名考正社地福永村ニ坐トス勢陽雜記拾遺
此ニ從ヘリ福永ハ東名郡ニ屬ノ本郡ニ混ス
ヘキニ非ス繩生トニ里許ヲ隔テリ延喜式本
郡ニ隸レリ郡界ノ今古差ヘルモ非ス式社案
内記ハ本邑今云富士権現祭神春靈穀神トス
其餘前輩祭神區々トノ紛紜定リ難シ

小向 繩生ノ南ニアリ本邑及繩生ヨリ東名ニ
至リ東街道ナリ平坦ノ地ニ民居ス遠武計ト
訓ス小向ノ名詳ナラス 正税千二十四石東
名領ナリ本邑ニ東西富田村ニ同ク茶麩多シ
京名蛤ヲ火ニ炙リテ 旅客ニ饗スヤキ蛤ト称

ス松毬ヲ火ニ燃メ其火ニ炙ル諸州ニ東名焼
蛤ト賞ストイヘ凡富田ト本邑ニ販ク処ニソ
他ニハアラス ○神鳳抄内宮小向御園三十町
二石七斗兼久建久ノ沙汰文ナリ ○外宮神領
目錄小向御厨一石同新開上分ニ貫文ト載夕
リ

○迹保遥拜所 繩生ト小向ノ間宮道ノ右傍
ニアリ東國ヨリ大神宮ニ詣スル諸客ニ此処
ヨリ遥拜セシム為土民ノ設タル処ナリ然レ
凡旧昔ヨリ所置ニメ今世モ然リ或云小向神
戸ノ旧地トス凡ハ非ナリ 按ニ壬申ノ亂ニ
天武天皇三重郡ノ頓宮ヨリ東名ニ到玉ヘル

時此処ニシテ大神宮ヲ遥拜ノ例ニ効ヒタル
ナリ日本天武紀云於朝明郡迹太河邊望拜
天照大神云云此ニ拠テ後世所置ニノ千歳ノ
旧蹟ト仰クヘシ詳ニ爰名郡矢田ノ條ニ載タ
リ或云今本邑ノ東ニアル小流ヲ星川ト称シ
上世ノ途太河ニ填ルアリ非トスヘシ所屋川
ハ眞辨郡ヨリ朝明爰名ノ二郡ノ間ヲ涯テ大
河ナリ然レハ上ハ星川ト称シ下ハ途太河ナ
リ朝明郡界ニアル処ニメ紀ノ文ニ適リト云
愚憶フニ迹太ヲ止保凡訓ス神鳳抄三重郡ニ
宮止保御厨三石ト載スルニ從テ三重郡ノ北
ニメ考索ストイヘ凡未其真ヲ不得疑ラクハ

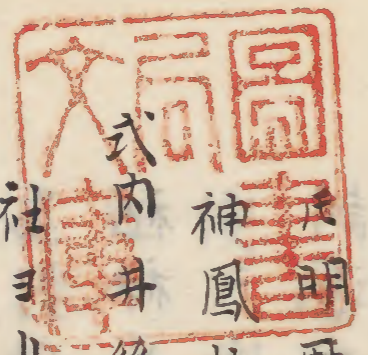
今古郡縣ノ差アリ三重朝明ノ間ニ在ル処ト
ノ強テ所屋川ヲ指モ非ナルヘシ猶朝明川ハ
三重ニ通キニアレハ臆断トイヘ凡遠カラス
上世ニメ所稱ハ小流ニモ非ルヘシ紀ノ文ニ
朝明郡迹太トアルニ其名ヲ帶フヘキハ今ノ
朝明川ヲ的トスルニ他ヲ容ヘカラスト憶ヘ
リ後ノ識者考定ムヘシ日本書記望拜云云
ハ尚書曰望秩山川史孝武記曰將以望祀蓬萊
之屬後漢書光武記曰望羣神注曰山川州
谷能興致雲雨者皆曰神不可偏至望而祭之
鸛林玉露曰臨安淨慈寺後有望祭殿每歲朝廷
差官一員望祭西京諸陵此等望拜ノ字ヨク

適レ今俗ノ遙拜ト云ニ近シ 神宮雜事記ニ
上件ノ説ニ異アリ云天武天皇白鳳二年壬申
大政大臣大伴皇子企謀叛擬奉誅天皇天皇御
内心尔伊勢大神宮令祈申給必合戰之間令勝
御者以皇子天皇大神宮御杖代可令齋進之由
御祈禱有感應彼合戰之日天皇勝世里仍御即
位二年辛酉九月十七日天皇參詣於伊勢皇太
神宮志天令申御祈給倍利或本云神宮參着了
者又或本云從飯高郡遙拜皇大神歸御之由具
也件記文西端也本記白鳳四年乙亥九月十之
日仁多基子内親王參入於大神宮給倍利云云
今考ルニ雜事記ニ所載異說一定シ難シトイ

一氏飯高郡ニノ皇太神ヲ遙拜シ還御ノ由ヲ
載タリ日本書記ニ拠ル時ハ朝明途太川ニ望
拜シ衣名ヲ經テ美濃國ニ潛幸ナリ神宮ニ詣
シ或飯高郡ニ行幸ナシ此書ハ神宮ノ旧典ト
イヘ氏姓昔ノ所傳ニノ国史ニ不合モ多シ正
史煥然ナルヲ措テ他ニ從フヘキ謂フヘキ謂
ナシ然トモ標出ノ具異説ヲ併考ルニ便スナ
リ

北福寄 繩生ノ東ニアリ町屋川ノ下流海瀨ニ
民居ス南北二邑アリ北ニ居ス故ニ名ク岐多
布玖邪伎ト訓ス 正稅千二十石素名領十
リ 神鳳抄福崎御厨二十五町二石 一本福永
作ル非

リナ福永表名郡ニ属セリ此処ニ非ス 属邑當
新田亀ヶ洲新田アリ本邑ノ東西ニ居ス
南福崎 北福崎ノ南ニアリ朝明川ノ下流水厓
海邊ニ民居ス 正税四百七石表名領十リ
豊田一色 南福崎ノ西ニアリ朝明川ノ下流田
間ニ民居ス土俗登伊池伊志伎ト称ス朝明川
ヲ隔テ南ニ豊田アリ古昔本邑豊田ヨリ分置
スル処十リ故ニ一色ト称ス今ハ一色ニノ別
タリ 正税三百ニ石表名領十リ一色ハ負辨
及本郡菴藝度會郡ニアリ新田新開ノ義ニノ
往昔ハ分置セル地ナルヘシ東国ヨリ本州ニ
至リ往々アリ名義ハ負辨郡一色ノ條ニ辨セ



柿村 表名府ヨリ一里南小向ノ南ニアリ東街
道ノ官道ニ民居ス加伎牟良ト訓ス 正税五
百三十一石表名領十リ勢陽雜記ニ不載然レ
曆圖ニアリ漏脱ナルヘシ属邑 今村
神明抄新田五斗
式内并後神社 同处ニアリ豊田村八十積掠神
社ヨリ乾位十所ニアリ本邑ノ東田間ニ坐ス
土俗賀茂明神ト称ス 式社案内記ニ貴船明
神ト称スト云今ハ然ラス或云神明ト称ス
按ニ貴船明神加茂ノ小神社中ニ並坐ス故ニ
村民ニ從ヒテ答フニ異同アルヘシ強テ索ム

ニ不及俗稱ニ從フニ非ス然レ余カ問フニ加
茂明神ト報ス其真ハ論セストイヘレ後人ノ
索問ニ惑ヲ解カ故ナリ 度會延經神明帳考
證并後神社聖神日午并訓相通聖神日白日神
為對川北村欽云云 度會正身神名帳再考證
祀神前ニ同シ佐倉村邊ニアリ云云 親毅考
ルニ延經考證ハ并後神社ノ名ニ拠并ト日ト
訓通ス故ニ聖神ヲ奉祀ス白日神ト相對メ川
北村ニアル処カト疑ヘリ正身再考證ハ祭神
考證ニ從ヒテ聖神ニ定テ佐倉村ノ邊ニアリ
ト云カ如ク聞ユレ凡然ニハ非ス前條櫻神社
ノ名義ハサキムラニノ堰ノ前ノ意ナリ并後

神社ノ名ハ櫻ニ對ノ堰後ノ謂ナリ祭神植安
姫命ヲ祀レリ此故ニ坐ス処ノ村及祭神モ前
ニ同シト云櫻神社ヲ三重郡佐倉村ニ所坐ニ
定タルニ拠テ櫻神社ノ前後ニ對スレハ佐倉
ノ邊ニアルヘシト注セリ愚憶フニ考證ハ并
後ノ名ニ拠テヒジリト相通ス故ニ聖神ヲ奉
祀スルト云ハヒシリノ訓通スルノニ採テ并
後ノ名義ハ舍ルニ似タリ聖神ハ延喜式和泉
国和泉郡聖神社トニ工テ即信田明神ナリ社
傳云祭神聖神 神系圖云素盞鳥尊ノ孫大歲
ノ兒 三代實錄云貞觀元年五月七日 壬戌和
泉国旧府神聖神比賣神等列官社同年八月十

三日授從五位下聖神從四位上是ニ拠テ考レ
ハ聖神大歳見トスル時ハ田穀ノ事ニ預ラサ
ルニ非サレハ井後ニ適フトイヘ凡社号ニ井
後トアルニ聖ト通音夕リ凡聖神ヨリ井後ノ
名ノ起ルニハ非ス又井後ノ名ヨリ聖神ヲ設
祭ニモ非ス然レハ櫻神社ニ木花開耶姫ヲ祭
ルト云如ク神名ト社号ト的當セサルハ十カ
ルヘシ是鑿說ニノ其實ハ證ナシ自己ノ牽強
臆断ハ信シ難シ再考證ハ櫻神社ノ名ハ前村
ノ説ハ從ヒ難シ井後ハ堰後ト云ハ佳ナリ今
其坐地ヲ問スルニ本邑ノ東田堰堰埭ノ処ニ
ノ朝明川ノ傍ニ坐スヲ以テ永井村井手神社

ニ同ク井後ノ名ノ起ル処ヲ知レリ此ニ從フ
ヘシ考證ニ川北村ニ在ル処歟ト疑フニ拠テ
考ルニ朝明川ノ南ニアリトイヘ凡河渠ニ遠
シ井後ノ名モ適ヒ難シ猶臆断ナレハ取用ス
ルニ不足トス 勢陽雜記及式社案内記ハ各
本邑ニ坐スト云 伊勢名所回會小白村後土
俗神明ト称ト云ヘ凡其徴ナシ然ルニ祭神素
蓋鳥尊トス考證ニ從テ大歳見聖神ト云ニ効
テ其祖素蓋鳥尊ト填ルナルヘシ然凡此書京
京師ノ人秋里舜福著ス処ニノ他邦ヨリ窺フ
トイヘ凡土俗ノ傳聞誤説ヲ奉テ真偽ヲ辨セ
ス妄ニ作ル処ニノ信スヘキニ非ス各從容ニ

唯之古屋草紙背書因誌是ニ働ヘリ前輩區々
トノ一定ナシ然レ經歷ノ其地ノ真トスヘキ
ヲ閱ノ此ニ從ヘリ

○柿城跡 同処井後神社左傍ニアリ弘治年
中沼木三河入道宗喜居住ス神戸城織田信孝
ノ力ナリ弘治三丁巳年三月近江国佐々木
六角源義賢家臣小倉三河守ニ命メ當城ヲ伐
シム雄鎮堅固ニメ江軍更ニ利ナシ故ニ謀畧
ヲ以テ和睦ノ三重郡千草勢ト俱ニ河曲郡神
戸ノ属岸田城ヲ伐ント称ノ三河入道ヲ掠出
シ其留守ノ間放火ノ柿城ヲ奪ヘリト云或伊
勢軍記ヲ閱スルニ弘治三年春佐々木六角源

資秀其臣小倉三河守ニ命メ三重郡千草城ヲ
撃又神戸力柿城ヲ拒ム此時神戸下総守一
千余騎ヲ率メ同廿八日柿城ヲ援ク下総守力
長臣岸田城主佐藤中務丞同男又三郎父子神
戸ニ叛テ神戸城ヲ奪ヒ小倉三河守ヲ住シム
其時佐藤力臣古市与助佐藤ニ叛テ岸田城ヲ
攻伐ス神戸ト同心ノ長野ノ工藤家ヲ催メ俱
ニ小倉三河守力所居ノ神戸城ヲ撃ツ小倉利
ヲ失ヒ千草家ニ敗走ス下総守怒テ佐藤父子
ヲ河曲郡十官ニ潜居セルヲ虜ニメ許容ト謀
リテ神戸城ニ於テ誅ス其死骸ヲ薦ニ裹ミテ
三月市場ニ弃ケリ君臣義ヲ忘テカ、ル災害

二遭へり云其要ヲ摘テ録ス

松寺 柿村ノ南朝明川ノ坤位ニアリ東海官道
ニ民居ス麻津傳良ト訓ス 正税四百十八石
赤名領ナリ松寺ノ名義未考得ス本邑ヨリ三
重郡ノ山間ノ村邑又本郡保々下野ヨリ近江
国ニ至ル山路及真辨郡山谷村落ニ通ス往還
ノ路アリ又赤名府ヨリ至ルニ此ニ會ス官道
ナリ然レモ各松林アリテ小徑ニシテ民屋遠
ク丘岡及郊野ヲ歷テ甚歧道多ク踣躄ノ至リ
難シ

豊田 松寺ノ東ニアリ朝明川ノ南屋ニ傍テ民
居ス土俗登伊陀ト訓ス 和名類聚抄豊田郷

ナリ 正税千十九石赤名領ナリ地方平坦ニ
メ稲田多シ故ニ豊田ノ名ヲ稱ス 東鑑第七
文治三年四月廿九月條云豊田庄地頭加藤太
光貞ト載タリ本州三重菴藝河曲安濃郡ニ至
リ加藤氏ノ事蹟多シ其條ニ詳ニセリ

式内八十積掠神社 同処ニアリ余經歷スルニ
松寺村南口ヨリ東ニ至リ田間ヲ歷テ本邑ノ
東田間ニ坐ス方俗明神ノ社ト稱ス東富田島
出神社ヨリ乾位十三町 度會延經神名帳考
證八十積掠神社豊宇氣姫命按ニ八十積稱盈
積之詞顯豊饒之神德也掠倉也今在豊田村社
此乎豊田郷名也 度會正身神名帳再考證八

十積掠神社古公税ノ此倉ニ祀ル処ナレハ束
稻ヲ多ク積ム倉ノ神社ト祝スル号ナリ祀神
倉稻魂社地豊田村云々 親毅考凡ニ延經考
證ハ祭神ハ豊宇氣姫命ニノ八十積ハ八千八
百ニ同ク盈積ムノ意ニテ神名ニ拠リ其神功
ヲ表メ豊饒ヲ云掠ハ倉ノ借字ナリ豊田ニ坐
ス処ナルヘシト疑ヘリ正身再考證ハ上古公
税ノ此倉ニ祭ル神ニノ束稻ヲ多ク積ヲ八十
積ト云ヲ知り其倉ニ積ムヲ壽詞ノ社号ニシ
テ祭神ハ倉稻魂ナリト大畧前説ニ從ヒテ注
セリ前考證ハ豊宇氣姫命ヲ祀ルトス鎮座傳
記和久産巢日神子豊宇氣姫命稻靈也奉備御

神酒一名豊宇賀能賣命トモ称ス外宮御酒殿
ニ所祭ナリ又日本神代紀云稻靈即宇賀御魂
命或倉稻魂命凡云内宮稻御倉ニ奉祀スル処
ニメニ神俱ニ稻ノ靈神ナリ然レハ八十積掠
ニ祭ルヘキ義ハ相同シトイヘ凡強テ謂フ片
ハ豊宇氣姫ノ名ニ拠テ豊田ト村名ニ帯ルニ
至ルハ前考證ヲ然リトス孰レハ十積倉ノ名
ニ拠テ村名ニ称スルト云ハ穩當ニメ真ナリ
ニ考證ニ凡テ神名ヲ配ストイヘ凡其證古典
ニ考ヘキナシ各憶度ナリニ宮撰社未社及式
内神社皆傳説アリテ神名ヲ配當スルニ於テ
ハ他ヲ容ヘカラス然レ凡他方ノ神社ニ至リ

興廢建置七詳ナラサル若干ナリ各自ニ神名
ヲ配ストモ至當トシ非シ 勢陽雜記拾遺式
社案内記豊宇氣姫命トス古屋草紙勢陽俚諺
ハ飯豊姫命ニ作ル其義相似トイヘ凡何ノ證
ヲ得テ定メタル怪ヘシ

蒔田 豊田ノ埤位ニアリ平坦田畝ノ間ニ民居
ス摩伊多ト訓ス豊田ニ相對ノ耕田ニ播種ス
ル業ヲ名ク義ナリ 正税三百四十一石桑名
領ナリ文治建久中富田庄六箇村ノ内ナリ

東富田 松寺ノ南東海官道ニ民居ス三重郡四
日市駅ヨリ東五十町ニアリ或一里是伊勢路
ノ行程ナリ西富田ニ對メ東富田ト名ク地方

耕田多シ故ニ豊富ヲ祝メ称ス比賀志登美陀
ト訓ス 正税三百九十七石桑名領ナリ 神
鳳抄外宮富田御厨十二石三町 外宮神領目
録北富田御厨六石内六九十二石宛同富田
納所一石 富田庄六箇村ノ内ナリ 此ニ北
富田ト云ハ今ノ東富田ニメ南北ニ神宮ヨリ
量リ記スナルヘシ土民街道ニ居メ貸食店多
シ桑名蛤ヲ松越ヲ燃メ炙リ旅客ニ饗食セシム
又前條松寺村ニ貸ル物ト同シ東武晋子其角
祭句

くはるは焼くくやほゆるきん

勢陽五鈴遺響朝明郡卷之二終

東鑑第七文治三年四月廿九日條富田庄院御
領工藤左衛門尉助經知行 同第三壽永三年
八月二日條戊午雨降大内冠者飛脚重参着申
云云去十九日酉刻于平家餘黨等合戰逆徒敗
北討亡者九十餘人其内張本四人富田進士家
助前兵衛尉家能家清入道平田太郎家繼入道
等也前出羽守信兼子息等並忠清法師等有逃
己山中畢 同第十八元久元年三月九日條壬
申晴武藏守朝政飛脚到着申云云去月月雅樂助
平維基子孫等起伊賀国中官長司夏光子息等
起伊勢国各叛逆云云彼西国守護人山内首藤
刑部丞經俊相尋子細之处無左右企合戰經俊

依無勢逃亡之間凶徒等虜領二箇國固鈴鹿關
八峯山等之道路仍無上路之人云云 同卷四
月廿三日出京爰伊勢平氏等塞鈴鹿關所索險
岨之際縱雖不遂合戰人馬依難通之廻美濃国
同廿七日入伊勢国凝計儀自今月十月至同十
一日合戰先皇進士三郎基度朝明郡富田之館
挑戰移刻誅基度並松本三郎盛光同四郎同九
郎等次於安濃郡攻擊固八郎貞重及子息伴類
次到多氣郡于庄田三郎佐房同子息師持等相
戰彼輩遂以敗北又生虜河田刑部大夫大九狼
吠雖廢西面蜂起不戢三月件殘黨猶在伊賀国
重可追討之 同第廿一建曆三年七月十一月

條庚戌天晴相州參御所廣元朝給被献盃酒具
間相州被申云去五月所于義盛之富田三郎
強力勝于人扛鼎碎石云將軍家為御覽其藝
石富田伊東七郎具參候寢殿西面簀子自御所
被出大鹿角二長各三尺方七寸依仰相州令尋
進之給二角一度折之滿座莫不感歎又御感之
餘可被免囚人之旨被仰出云云相州即令下知
其趣於金窪左衛門行親給云云按此餘ハ
若菜五郎及貞辨大領行細等黨ヲ結テ謀叛ス
鈴鹿郡小野村三重郡高角城跡貞辨郡長尾村
條ニ事實ヲ挙タリ参考スヘシ富田進士三郎
家資東鑑ニ家助ニ作ル富田進士三郎基度男

中宮長司度光力孫十リ 古屋草紙及勢陽雜
記拾遺富田三郎基盛或中宮進士度光或教光
ニ作ル東鑑ニ扱片ハ異十リ其否考ヘシ伊勢
軍記ニ伊勢平氏進士家資ノ後トス是富田家
十リ前後諸書錯乱アリ猶校正スヘシ
式内鳥出神社 同処ニ坐ス大社十リ 外宮正
殿ノ古村ヲ乞テ造立スト云土俗飛鳥明神ト
称ス余經歷スルニ豊田村八十積掠神社ヨリ
田間ヲ經テ官道ニ出テ本邑ニ至ル大失知村
長倉神社ヨリ東ニ去リ十三町 度會延經神
名帳考證鳥出神社鳥鳴海神古事記大國主神
生子鳥鳴海神出雲國造神賀詞云賀夜奈流美

命能御魂乎飛鳥乃神奈備尔坐天按賀八神也夜北陰也今富田村海濱社稱飛鳥社鳥出訓登利兵利ハ今美横音通ス在田光村之辰云云度會正身神名帳再考證鳥出神社日本武尊ヲ能褒野陵ニ葬奉リシニ白鳥ト化メ出去玉フノ地ヲ鳥出ト云今此邊ヲ總ノ富田ト呼ハ假字ニメ鳥出ナリ鳥ト云ニ唇ヲ閉テヒヲ生シヒノ用大ナル故ニ如此ナルナリニみナトハ文字ニ拠ル俗稱ト知ヘシ神社ハ海濱ニ在テ田光村ノ東ニ當レリ能褒野ト地ノ相距ルヲ以テ此神社ヲ倭武命ヲ祀ルニ非スト思フハ非ナリ古ヨリ陵墓ト具神社ハ同域ニ非ル事

谷重遠カ俗説贅辨ニ論タルカ如シ景行紀田葬日本武尊於伊勢国能褒野御陵時日本武尊化白鳥從陵出之指倭国而飛之群臣等因以問其棺櫬而視之明衣空留而屍骨無之於是遣使者追尋白鳥則停倭琴彈原云云此大和国ナリ琴彈原ヲモ富田村ト云テ葛上郡ナリ因テ鳥出ノ説ノ差ハサルヲ見ルヘシ云云親殺考凡ニ延經考證鳥出神社ノ名ニ拠テ大國主神ノ兒鳥鳴海神ヲ定祝スト云方俗明神ト称スルニ從ヒ出雲国造神賀詞ニ賀夜奈流美命ノ飛鳥乃神奈備尔坐天等ノ文ニ例ノ富田海邊ノ飛鳥社ニ鳥出ノ音通ヲ以テ富田ニ附會シ

田光村ノ東ニアリト注セリ正身再考證ハ鳥
出ノ名ニ拠テ鈴鹿郡能褒野ニ日本武尊ヲ葬
奉リシニ白鳥ト化ノ大和国ニ飛行シ主フ片
此地ニ飛出坐ス故ニ鳥出ト名ク即今ノ富田
ハ鳥出ノ轉ニシテ後ニ大和国琴弾原ニ止リ
玉ヘル地ヲモ富田村ト名クル義ヲ拠トシテ
日本武尊ヲ祭リ田光村ノ東ニ社地ハアリト
叙セリ愚憶フニ倭武命飛行ノ時此地ニ到憩
玉ヘルニ拠テ鳥出ノ名起リ鳥出ハ富田ト轉
シ大和国ニ富田村ノ名アルニ擬メ倭武命ノ
遺址ト定タルハ旧典ニ拠ナシトイヘ凡そ
スト賞スヘシ既ニ鈴鹿郡ニモ東西富田アリ

前説ニ拠ル片ハ此富田モ由アルヘシ其地ヨ
リ飛騰シ東海ニ到リ玉ヲ傳説モアレハ此鳥
出ニ憩玉ヘル經行ノ地方ニモ當ルヘシ然レ
凡そ田光村ノ東ニアリトニ考證ニ云ハ遠遠ニ
ノ隔リ此紙上ノ論ニノ經歷ノ其地ヲ閱サレ
ノ弊ナリ考證ハ出雲国造神賀詞ノ方ト方俗
飛鳥明神ト称スヲ以テ鳥鳴海神ニ定タルハ
疎ナリ然レ凡そ前輩考證ニ從テ勢陽雜記拾遺
式社案内記各鳥鳴海神ヲ奉祀ト云勢陽俚諺
白鳥明神ト称ス是ハ倭武命ノ故事ニ拠レリ
ト云ヘシ其餘各考證ニ從ヘリトイヘ凡そ其證
ナシ信難シ然レニ鳥出神社社傳ヲ聞クニ鳥

出鳴海神ニ非ス秘蘊ノ神名ナリト云片ハ恐
クハ再考證ニ分明倭武命ヲ祭ルト云同義
ニメ會蓄ノ世人ニ不傳ト憶ヘリ又神鳳徴古
録ニ鳥出神社ノ地ハ天平十二年聖武天皇伊
勢行幸ノ時朝明行宮ノ遺跡ナリト云ハ非ナ
リ後條本郡羽津村ノ下ニ辨セリ

西富田 東富田ノ西東街道ノ官道ニアリ平坦
ノ地ニ民居ス東富田ニ對ノ西富田ト云 神
宮旧録ニハ南富田ト記ス訓字ノ如シ 正税
七百七十六石素名領ナリ 神鳳抄
外宮神領目錄南富田御厨六石内六九十二
石宛下載タリ 文治三年富田及蔭田 後院

ノ御領守護代蔭田相模守居住ス蔭田氏ノ墳
墓三光寺ニアリ相模守ノ後裔僧トナリ歷代
住侶ノ此墓ヲ鑿スト云○屬邑北島本邑ノ良
位ニアリ

高松 豊田ノ東海瀨ニ民居ス多加麻津ト訓ス
正税五百二十五石素名領ナリ明曆中地圖ニ
富田ノ屬邑トス今ハ分置ノ居ス処ナルヘシ
神鳳抄高野御厨 神鳳徴古録ニ高松ニ作
リ此地ノ有ナリト云未詳 塚田屬邑アリ
富田一色 天ヶ須賀ノ南ニアリ富田川ノ下流
海邊 民居ス訓字ノコトシ漁家多シ近世來
各府ニ同ク蛤肉ヲ醬汁ニ熬テ時雨蛤ト称シ

四方ニ敷ク一色ノ名義ハ前條ニ辨セリ正
税二百四十一石桑名領ナリ東ノ海岸ヨリ
町許遠淺ニシテ大風ニ舟維クニ佳ナラズ一町
許ノ間ヨリ外海底深ニ間又十五所ヨリ外深
六間許

天須賀 富田一色ノ北ニアリ富田川ノ下流海
邊ニ民居ス阿麻賀須加ト訓ス 正税四百九
十一石桑名領ナリ明曆圖ニ富田ノ属邑トス
今ハ分置セリ漁戸多シ富田一色及本邑小海
蝦ヲ捕テ乾腊ニ製メ出ス四方ニ售ルホシ且
ヒト称ス其餘海物アリ 須加ハ本州及東国
ニモアリ水邊海瀕ニ多ク名ク天ハ疑ラクハ

海人ノ一ニメ須加ハ洲居ノ義ナルヘシ河海
砂磧ヲ指スノ謂ナリ

松原 天須賀ノ西ニアリ平林ノ中ニ民居ス訓
字ノ如シ 正税二百八十一石桑名領ナリ明
曆圖ニ富田ノ属邑トス

北村 松原ノ西ニアリ富田川下流ノ北ニアリ
明曆圖ニ茂福ノ属邑トス茂福ハ河南ニアリ
本邑ハ河北ニアリ故ニ北村ト茂福ヨリ指メ
名ク処ナルヘシ訓字ノ如シ 正税三百三十
二石桑名領ナリ

茂福 西富田ノ南東街道官道富田川ノ南ニ民
居ス毛知武致ト訓ス 神鳳抄茂福名三十三

町又負辨郡ニ用福名一町用福名五町ト載ス
アリ茂福用福ノ訓同シ疑クハ本郡負辨ノ群
界ノ差ヒアリテニ郡ニ載タル否ヲ知ス然
レ此郡ノ今ト差異多ケレハ用福モ此地ナル
ヘシ其餘郡ニ用福ト云ハ今ナシ富田川水
源ハ本郡垂坂山中ヨリ注キ出テ本邑ト西富
田ノ間官道ニ流テ東ニ至リ富田一色ノ北ニ
ノ東海ニ入ル

○茂福城跡 同処ニアリ餘吾將軍平惟茂ノ
後裔朝倉下野守平茂盛此ニ居住ス保々西村
城朝倉氏ト一族ナリ伊勢軍記ニ持福家ニ作
ル幕紋二引面ト云永禄十一年十月織田信長

ト戦テ敗亡ノ滅ス富田村南部氏ト同時ナリ
此ヨリ廢ノ遺跡今ニ至リテ存セリ村名ニ茂
福ト称スルハ平惟茂ノ後裔ナルニ拠テ茂ノ
一字ヲ通名トス故ニ茂ノ名ノ幸福アリテ歷
代連綿スヘキ祝語ニ名ケタルナリト村老ノ
傳説ヲ此ニ標出ス
八幡 茂福ノ南アリ東街道官道ニ民居ス耶
和多ト訓ス羽津村ノ属ナリト云 正税六百
八石爰名領ナリ 属邑新家アリ明曆中ヨリ
所置ナリ

羽津 八幡ノ南東街官道ニ民居ス波豆ト訓ス
和名類聚抄杖部郷ノ内ニノ鉢世都加倍ヲ後

世界ノ羽津ト称スルナリ云々 正統六百七
十六石桑名領ナリ旧名志氏ト称ス 八幡祠
此式外八幡宮アリ神田ノ在ル処ニ名クト
云々 上世ハ今ノ東海道ニ非ス羽津ト鶴村ノ
中間ニアリ
式内志氏神社 同処ニアリ三重郡西坂部村江
田神社ヨリ良位一里餘土俗風ノ神社ト称ス
社中ニ老松ニ檜柏ノ寄生ス大樹アリ又業平
竹ト云雌雄ノ者枝葉ヲ交生スルアリ大和國
石上業平寺庭中ニ生スト同種ナリ是土俗ノ
奇トノ献シ殖ル処ナリ 度會延經神名帳考
證志氏神社志那都比古神按氏本都音通ス万

葉集云天平十二年幸伊勢國之時歌

後尔之人乎思久四泥能寄水綿取之泥而將
住跡具思

水綿取之泥而トハ言想像泉人祈旅行之要全

續日本記曰天平十二年十一月丙午車駕到

朝明郡今別名村ノ南四手野社此乎云 度

會正身神名帳再考證万葉集及續日本記ヲ

引徵ス上ニ同シ 天平十二年十一月 丙午車

駕到朝明郡此地ハ即四泥ノ崎ニメ地名ハ其

田ノ沃壤ナレハ稻ノシナヒ登ルニ概テ志氏

ハ下垂ニテ^口札ノ切テナリ祀神稻靈今別名

村ニ四手野ノ社ト云 親殺考ルニ延經考證

志那都比古神ヲ祀ルニ拠テ地名ニ應ノ志
神社ト名クルハ^口ト^口音通ス故ニ志那比ノ
略ナリ万葉第六丹比屋主真人カ作哥ヲ引拠
メ取之泥ハ日本記ニ鎮ト訓テ神ヲ鎮祈リ奉
ルノ意ヲ四泥能崎ニカケ合タルヲ衆人ノ旅
ノ恙ナキヲ祈ルノ義ヲ注シ聖武天皇車
駕ヲ此地ニ到レルヲ牽合ノ別名ノ四手野ノ
社ヲ志比神社ナルヘシト解セリ正身再考證
ハ前證ニ從ヒテ上ニ同シ其車駕ノ至ル地ハ
四泥崎ナルヘシ地名ノ四手ト云ハ稲田ノ登
リ下垂スルノ義ニテ祭神ハ稻ノ靈ニテ別名
ノ四手野社ニ坐スト定メテ注セリ今憶フニ

考證ニ奉ル処ハ級津彥命ニノ風神ナリニ宮
別宮ニ奉祀ス風日祈宮風宮ニ同シ四泥崎志
比ニノ羽津ヨリ富田浦ニ至テ海濱ノ總名ナ
リ四泥崎ノ名義ハ其田ノ沃壤ナレハ稻ノシ
ナヒ登垂ルニ拠ル名ト云ハ臆断ナリ今ハ民
衆アリテ農ヲ業トスニ拠テ稲田ノアル処ニ
ノ上世ハ海邊ノ荒崎ナルハハカルヘシ然ル
ニ稻ノ下垂スヘキナシ是今ヲ閱メ古ヲ不知
妄言ナリ其名ク処モ千歳ノ後ニノ知難シ臆
度ノ後人ヲ誣ルハ書ヲ注スニハ恐ベクナリ
故ニ贅言スルニ及ヘリ其浦ニ對メ別名ハ幡
吉沢ニ陸續メ曠野ヲ志比野ト称スヘシ万葉

二四泥延喜式ニ志氏ニ作ル後世四手ニ轉ノ
志氏野ニ所坐ナレハ謂ナキニ非ストイヘ凡
村民惣ノ羽津ニアル社ヲ風ノ神社ト稱スル
ハ考證ニ宛ル処ト同シ故アルヘシト憶ヘリ
然凡四手野ニ坐ストニ考證ニ定タルハ其證
ナシ故ニ今ノ風神社本社ニ決スヘキナリ
古屋草紙勢陽雜記拾遺及勢陽俚諺伊勢名所
圖會等ハ天照大神荒意ヲ祭リ奉ルト云々ナ
リ土人崇敬ノ合祭凡処ニソ本社ノ神名ニハ
非ス此神社ノ地ハ本郡三重郡ノ界ニノ鳥居
ノ傍ニ二箇ノ標石ヲ置テ二郡ノ界ノ表トス
方俗此ニ石ヲ指テ婦夫石ト名ク婦女ノ婚ヲ

求ルノ祈願ヲ此ニナス必應アリト俗習也
臺照近校正ハ別名村ノ南四手野社ナルヘシ
ト云是考證ニ同シ背書國誌及式社案内記ハ
風ノ神社ニ填夕リ是ト云ヘシ

○志氏浦 万葉集四泥寄ニ作ル 同所ヨリ
富田浦ニ至リ惣名トスヘシ名義上ニ云カ如
シ未考 万葉丹比屋主真人作歌

後尔之人乎思久四泥之埒水綿取之泥而將
住跡其念

本居宣長住ハ往ムノ誤ニテ將往^{ユカム}ナレト
イヘリ 按ニ此歌者不有此行宮之作乎所以
然言之勅大夫從河口行宮還京勿令從駕焉何

有詠思泥埼作歌哉 仙覺傍注ニ見エ夕リ朝
明行宮行幸ノ義ハ一志郡川口ノ條ニ詳ニセ
リ
名寄 知家

伊勢名所拾遺和哥集四泥寄志摩國ニアリト
云非ナリ

○羽津城趾 同処本邑ト吉沢ノ間文明中赤
堀右京大夫国虎居住ス下野国赤堀ヨリ来テ
始テ此ニ城ヲ築ク国司北畠村親ニ属ス其男
俵藤太郎本郡保々中野ニ住ス俵藤太藤原秀
郷後裔ナリ後三重郡赤堀城ニ移住ス永禄十

一年十月織田信長ニ滅サル詳ニ赤堀ノ條ニ
載タリ天正十二年豊臣秀吉織田信雄ト矛盾
ニ及ヒ京名郡矢田河原ニ和睦ノ時秀吉當城
ニ在陣シ蒲生飛彈守繩生城ニ居ス京名郡京
部城ニ蜂須賀彦左衛門尉三重郡濱田城ニ滝
川下總守京名郡京名城ニ酒井左衛門尉石川
伯耆守二人ヲ居守シメテ挑戦シ処ナリ伊勢
軍記ニ詳ナリ

○延命山正法寺 同処ニアリ禪宗應永十二
年乙酉六月開山實峯和尚創立赤堀右京大夫
国虎香華所ナリ

須賀新田 羽津ノ東海瀨ニアリ 正税廿三石

粟名領十リ羽津ノ内 勢陽雜記ニ不載明曆
地圖ニハアリ

吉沢 羽津ノ西ニアリ田間平林ニ民居ス羽津

ノ内ナリ與斯邪波ト訓ス 正税百七十二石

索名領十リ 神鳳抄吉沢御厨三十町ト載タ

リ三重郡吉沢同名アリ

別名 羽津ノ北ニアリ 釜坂川ノ南崖ニ民居ス

倍都免宇ト訓ス羽津ノ内ナリ正税二百十五

石粟名領十リ別名ノ名義ハ即羽津ニ屬ノ別

ニ所置ノ名ト云ヘシ他郡ニ新田或一色ト云

ニ等シ 神鳳抄保ク別名一石五斗真辨郡保

々別名六石九斗光任別名廿一町一石五斗ト

載スル処ニ同ノ名田ノ別區ニ所在ノ村名ニ

メ称スナリ

式内長谷神社 同処ニアリ羽津村志氏神社ヨ

リ異位五町 度會延經神名帳考證長谷神社

岐神倭名抄云朝明郡杖部鉢世都加倍同云横

首杖加世都惠按鉢与加横音通ス都加衝也古

事記曰於桑投御杖所成神名衝立船戸神今在

未永村屬三重郡大和国宇陀郡御杖神社考ルニ

今神未村社歟未杖語通ス永投亦通ス 度會

正身神名帳再考證長谷神社大和国長谷神社

長谷山口神社アリ 祝詞式山口坐皇神等能前

尔白久飛鳥石寸石坂長谷止御名者白 遠山

近山尔生立苗大木小木乃本末打切也云云ト
アリ材ヲ切山ナレハ此神ヲ勧請セルナレハ
ニ社地薦野ノ山下ニ在ル欽祀神大山祇云云
親殺考ルニ延經考證ハ朝明郡郷名杖部鉢
世都加倍ナルニ拠テ長谷神社ノ名起リ和名
折ニ横首杖ヲ加世都惠ト訓スル故ニ鉢世都
加倍ト云カキコハノ横通音ニノカトハハ
通スレハ鉢世都加倍ハ加世都惠ニ同シ其故
ニ杖ノ義ヲ採テ伊弉諾尊ノ御杖棄玉ト時ニ
所生ノ衝立舟戸神ヲ祭ルトシ今世末永村ア
リ末ハ杖ノ轉ニノ語通ス又永ハ投ルニ通ス
三重郡ニ属ストイハレ此故ニ末永村ニアリ

大和国宇陀郡神末村御杖神社ヲ祭ルニ同義
ナリト云解ナリ正身再考證ハ大和国長谷神
社長谷山口神社アリ延喜祝詞式ヲ引拠シテ
山口坐皇神等遠山近山尔生立苗大木小木ノ
本末打切云云又ヲ撫テ材ヲ伐ナレハ此神ヲ
祀ルヘシ然ラハ社地ハ薦野山下ニ在ナルヘ
シ祀神大山祇ナリト叙セリ愚憶フニ都加衝
也衝立船戸神御杖ヨリ所生ノ神ヲ祭ル故末
ハ杖ノ轉永ハ投ルノ轉ニノ末永ト云村ニア
リト云ハ牽強ナリ末永ハ三重郡ニ属ノ今羽
津別名ノ地ニ通ク郡界ニ在トイハレ京名郡
系部長谷神社條ニ注ス如ク羽津ハ杖部ノ下

畧濁ニソ羽津別名ニアル四手野社ト称スル
ハ此長谷神社ナリ此地和名抄所載杖部郷ニ
隸屬ニルヲ必セリ別ニ論ナシ長谷ハ波世都
加倍ノ下畧ナリ末永ハ隣比ノ地ニシテ旧ハ同
郷ナルヘキモ不知ト云ヘ凡長谷ノ名ニ的當
スルニ他ヲ容ル事ナシ大和国宇陀郡御杖神
社ハ今神末村ノ産社ナリ方俗葛明神ト称メ
近邑ハ箇村ノ総社ナリ神末ノ名ハ神杖ニシテ
衝立船戸神ノ名ヨリ起レリト謂ヘシ余モ国
界ヲ究索リテ至リテ知レリ三本松ト云処ハ
古昔ハ界ナリシニ今ハ鞍取坂ト杉平村ノ西
ノ堀切アリ是伊勢大和ノ国界ナリ然レ凡御

杖神社ト同神ナリト云否ヲ知ラズ正身再考
證ハ長谷山口神社大和国長谷ニ坐ス延喜祝
詞式ノ文ヲ引徴ノ山神ナルヲ以此処ニ祭神
大山祇命社域ハ薦野山下ニ在ヘシト云ハ臆
断ナリ長谷山口坐神社ハ延喜式及三代實錄
ニモ所載ニシテ名高ニ祭神未考然凡或ハ天手
カ雄命ヲ奉祀スト云ヘリ今方俗子伎ノ天神
ト称ス山口ノ名ニ拠テ大山祇命ニ限レリト
定ルニ其所在ヲ不知メ薦野山下ニ在ルヘシ
ト惑ヘルニ神名ヲ必定スルハ怪ムヘシ偏ニ
前考證ヲ排スヘキ奸智ナルヨリ妄ニ推スト
イヘ凡証ヘカラス猶菰野ハ三重郡ニ隸リ此

長谷神社今ノ処ニ定ム片ハ路程邈ニノ殊ニ
郡界ノ乱ルヘキニモ非ス詳ナラスト亦ヘシ
竜照近神名帳考正別名村志氏神社ナルヘシ
ト云ハ此神社ヲ誤リタルニ拠テ勢陽雜記拾
遺式社案内記勢陽俚諺等モ考證ニ効ヒテ衝
立舟戸神ヲ奉祀スト云或岐神ト云一神ニ名
ナレハナリ

鷓村 茂福ノ西ニアリ垂坂川ヲ隔テ別名ノ北
ニ民居又伊加留加ト訓ス四日市駅ヨリ乾位
廿五町 正税百八十石桑名領ナリ 屬邑南
鷓アリ本邑ノ坤位ニアリ勢陽雜記不載明曆
中後ニ所置ナルヘシ 神鳳抄鷓御厨三丁大

和國平群郡法隆寺ノ地旧名斑鳩ト云伊加留
加ト訓ス又播磨國鷓庄同名アリ○東鑑第六
文治三年三月十九日 辛酉依被重上官太子聖
跡法隆寺領地頭金子十郎妨事可停止之趣去
年下知給之處猶不靜之由寺家帶院宣就訴申
遣雜色里久可止鷓庄押領之由及沙汰件庄事
太子殊依執思食有被載趣ニ品專所聞召驚也
下播磨國住人可令停止金子十郎妨一向從領
家所勘事云或云上件ノ文ニ拠ル片ハ此地
ニモ法隆寺ノ旧領或聖德太子ノ創立法隆寺
ヲ摸セル寺院ノ在ニ拠リ村名ニ帶セリ否
ト云然レモ伊賀留我神社ノ所坐ニ拠テ村邑

二名ケタル凡憶へり地名ヨリ神社ノ名號ハ
起レル多シ度會宮ト奉稱カ如シ神社ヨリ名
ク地ハ大略ナシ猶考へシ

式内伊賀留我神社 同処ニアリ余經歷スルニ
大矢知長倉神社ヨリ山谷ヲ踰テ南ニ至リ本
邑ニ至ル神社ニ宇アリ南ノ社北ノ社ト稱ノ
其間二所許ヲ隔タリ各林中ニ坐ス南ノ社伊
賀留我神社ナリ又神社ヨリ申酉位一丁許ニ
赭土山アリ山麓ニ天武社ト稱ス一區アリ方
俗齊大明神ト稱ス式社案内記ニ本社ヲ然云
トイヘ凡安ナリ此叢林ノ周廻ニ小流アリ水
苗川或米洗川ト云伊勢名所圖會ニ立坂神社

ノ傍ヨリ出ル流水ヲ米苗川ト云ハ非ナリ其
地ヲ不聞ノ臆断ナリ 度會延經神名帳考證
伊加留我神社意富伊我都命倭名抄云朝明郡
額田姓氏録云額田天津彦根命孫意富伊我都
命之後也按留子都横音通我神之畧語在鶴村
云 度會正身神名帳再考證伊加留我神社
社地直ニ鶴村ト云和名抄禽部ニ鶴伊加流加
神鳳抄鶴御厨トアレハ祭神倉稻魂ナリ云
親毅按ニ延經考證ニ祭神意富伊我都命即天
津彦根命ノ孫ニノ額田姓ノ遠祖ナリ既ニ東
名郡額田神社ニ同ク朝明郡額田ノ祖ナリハ
此ニ奉祀ト云義ニノ伊加流加ノ流ト神名ノ

都ト横通音ナルニ拠テ伊我都ニ附會シ加ハ
神ノ畧約ニメ伊我都神ト云テ地名ニ同シケ
レハ鶴村ニアリト解セリ正身再考證ハ伊加
留加ヲ直ニ地名ニ伊加流加ト称スルニ拠リ
鶴御厨ノ名モアル時ハ祭神ハ倉稻魂トスト
歿セリ愚按ニ考證ニ意富伊我都命ハ朝明郡
額田ノ氏人ノ祖ニメ此ニ奉祀スルト云ハア
ルヘシ然レ其證ヲ未得ス又神名ヲ枉テ畧約
ノ神社ニ号シ又神社ノ名ヨリ村名ノ起ル義
ハアルヘカラス大和国班鳩及播磨鶴庄等ハ
法隆寺領ニメ名クトイヘレ大和ノ班鳩ハ神
名ニ拠リ又寺名ニ拠テ名ノ起リタルニ非ス

旧ヨリ称スルニ本邑モ然リ神名ヨリ村邑
ニ名ルニ非ス鶴村ニ坐スニ拠テ伊加留我神
社ト名クハ諸社ニ例アリ祭神意富伊我都命
ト定タルハ妄ナリ再考證ハ伊加留我神社直
ニ鶴村ニ坐スニ拠レハ別論ナシ然レ鶴御厨
神鳳抄ニ所載ニメ御厨ノ存スルニハ屯倉
アリ故ニ祭神ハ倉稻魂ナリト云ハ偏ナリ本
州諸式社ニ御厨アル村邑多シ旧典ニ證アル
ハ從テ神名ヲ附ス其餘御厨アルニ悉ク倉稻
魂ヲ配セサルモ多端ナリ然ルニ妄ニ前考ヲ
排センカ為ニ臆度ノ私説ヲ設タルハ其怪ハ
シ各從ヒ准シ勢陽雜記拾遺及古屋草紙班

鳩宮ト称ス太神宮多度御鎮座ノ時鶴社ノ北
有村ト云有宮ノ跡ナリ又祭神鶴神社米日靈
貴トス又背書国誌野代宮ノ時齊宮ノ跡ナリ
ト云式社案内記是ニ徇テ俗ニ有大明神ト称
ス各俗傳ナリ齊宮ハ倭姫命ニ権輿ノ五百
野比賣命ニ相繼テ内宮鎮坐ノ後磯宮ヲ始ト
スレハ尾張中嶋宮ヨリ妾名野代宮ニ遷座ノ
時齊宮ノ号曾テアルトナシ論ニ不足ト云ヘ
凡世俗ノ惑ヘキヲ惠テ此ニ辨セリ
天武天皇頓宮址 同处伊加留我神社ヨリ申西
位一丁許ニ赭土ノ小山アリ其山麓ニ小祠一
區アリ天武社或方俗齊大明神ト称セリ式社

案内記ニ伊加留我神社ヲ俗ニ有明神ト称ス
トイヘ凡非ナリ混スヘカラス此小祠ノ叢林
ヨリ注キ出ル小流アリ米苗川或米洗川ト云
伊勢名所回會ニ立坂神社ノ傍ヨリ出ル流水
ヲ米苗川ト云ハ非トスヘシ其地不檢ノ他国
ヨリ窺ヒ妄ニ記スル故ナリ或云垂坂村ニ麴
ノ座ト云アリ旧昔大神宮ニ貢獻セシト云ニ
傳習シテ方俗ノ米苗川ト奉強ス処ナリト云
然レ凡水源ハ差ヘリ此天武社有明神ト称ス
ルハ古老傳ニ自鳳元年天武天皇大友皇子ニ
襲テ伊勢ニ潛幸ノ時吉野ヨリ伊賀隱郡ニ至
リ鈴鹿郡河曲ノ坂本頓宮又三重郡三重頓宮

ヲ歴テ本郡鶴ノ宮ニ至リ途大河ヲ涉テ赤名
郡ニ到リ玉ヘル路ニメ鈴鹿三重並ニ頓宮ノ
遺址アリ本郡鶴宮ト云ハ今ノ伊加留我神社
ノ地ニ非ス即鶴頓宮ノ義ニメ此地ニ定ムヘ
シ三重頓宮ノ址ハ御館村ニアリ三重川ノ水
源ニメ此ニ通シ方俗存明神ト称スルハ天皇
ノ潛幸ノ址ヲ存祀ルノ義ニメ或云存宮ノ意
ニハ非ス此千古ノ遺蹟ノ幽僻ノ地ニ存スル
ヲ世俗ノ不識ヲ曉スヘシト此舉ニ及ヘリ潛
幸ノ事實ハ前號赤名郡本願寺村ノ條ニ詳ニ
録ス併考ヘシ

稻荷 吉沢ノ西ニアリ三重本郡ノ界ナリ山林

ニ傍テ民居ス稻荷ノ名義ハ村中ニ村中ニ山
城国稻荷神社ヲ勸請メ祭ル祠アリ故ニ名シ
正税四百六十三石赤名領ナリ 勢陽雜記
明曆元禄圖等ニ不載後ニ所置ナルヘシ

下之宮 鶴村ノ北ニアリ垂坂川ノ東山林ニ傍
テ民居ス志毛乃美耶ト訓ス 正税三百四十
三石赤名領ナリ 神鳳抄下宮神領廿町又云
上下ノ宮四至神田ト載ス然ルニ異本元文年
中圖ニ上ノ宮アリ諸誌ニ不載明曆元禄圖ニ
ナシ 神鳳抄ニ所出ニメ後世ニ不知ハ廢絶
セリト憶ヘリ疑クハ大矢知村櫻神社ニ近ク
隣比セリ下ノ宮ハ前社等ノ存スル処ニメ上

官ハ即櫻神社ヲ指スニ拠テ神田ハアリトイ
ヘ氏旧ヨリ村落ハナキ処ニシテ名田ノ
タル氏ミエタリ建久中ヨリ称シ来レハ旧地
ナリ余經歷スルニ大矢知ヨリ南谷ニ至テ
村ニ出ルニ拠テ其地ヲ檢セス闕如スルニ至
レリ猶考ヘシ

垂坂 鶴村ノ西ニアリ山間ニ民居ス四月市販
ヨリ乾位一里半多留佐加下訓又萱生ヨリ巽
位ニ去テ本邑ニ至ル山路アリ峻岨ナリ垂坂
ト云此名アルニ拠テ村名ニ称スナルヘシ
正税二百六十五石表名領ナリ 勢陽雜記麴
ヲ造ルヲ産業トスト云河曲郡玉垣村飯野

郡中万村本邑氏ニ當国ニテ三麴云俗称ノ
産物ナリ麴米ト称メ古年一石ニ斗毎歳外宮
ニ神献ス吉例ナリト云 按ニ神鳳抄旧例ナ
シ 外宮神領目錄當時御齎糶之料古升ニテ
一石ニ斗ト載タリ村民ノ云処ニ同シ 神宮
徴古録大神宮表名野代宮ニ鎮座ノ時ヨリ造
酒ノ糶ヲ献ス旧例ナリト云神宮ニ此所傳ナ
シ神鳳抄ニ糶料米ノ事アリテ餘ハ所見ナシ
俗傳ナリ

式内立坂神社 同処ニアリ 繩生村苗代神社ヨ
リ乾位廿五町 度會延經神名帳考證立坂神
社立五十猛命称伊達神達立音訓同坂正鹿山

津見神坂本正鹿言通土佐國安藝郡多氣神社
坂本神社並載于此同神今云矢田八幡是乎矢
本屋同訓五十猛神亦云大屋彦神云云 度會
正身神名帳再考證社地未考前ノ長谷社ト共
ニ山中ニ有ヘシ宜ク追考スヘシ云云 親毅
考ルニ延經考證ハ立ハ達ト同ク五十猛命ヲ
伊達神ト称スルニ拠テ立ハ達ト同音土佐國
多氣神社ハ武猛ノ字ニ拠リ同國坂本神社ハ
正鹿山津見ト真坂ノ言通ス各五十猛命ヲ祀
ル処ナレハ立坂モ右ノ例ニ見ツヘシ又五十
猛命ヲ大屋彦氏云ハハ矢田ノ矢ト大屋ノ屋
ト通ソ同訓ナレハ矢田八幡ナルヘシト叙セ

リ正身再考證ハ社地ヲ未考別名村ノ長谷神
社モ立坂ニ同ク山谷ノ義アレハ俱ニ山間ニ
アルヘシト解セリ愚按ニ立坂ノ立ハ達ノ字
ニ同ク五十猛命ヲ伊達神ト称スルニ拠リ多
氣神社ハ武猛ノ字ニ倣ヒ坂本神社ノ神名ハ
正鹿ト同ク各三十猛ヲ祭リタルニ例ノ立坂
神社ニ此神ヲ奉祀ストノ衆名郡矢田ノ屋ニ
同音大屋彦神名ニ合スルヲ以テ矢田ニ定祀
スル処ト叙ストイハ凡各牽強ニノ其證トス
ルナレ矢田八幡ハ勢陽雜記拾遺及古屋草紙
等ニ壬申ノ亂ニ天武天皇行宮ノ旧址ト近
刊伊勢名所圖會此ニ從ヘリ或東街道名所圖

會ハ素名郡本願寺村ニアリト云各非トスヘ
シ天武行宮ノ旧墟ハ素名府城ノ南江場村ニ
アリ即素名頓宮ノ旧地トシ後人ノ所造ナリ
然ルニ慶長五年旧城主本多中務大輔源忠勝
矢田ハ幡宮ヲ奉祀シ元和二年社領二十石ヲ
附ス同美濃守源忠政寄附田ノ旧牒アリ是ニ
拠テ例祭毎年九月十九日今境内ニ大日堂ヲ
建此ニハ幡宮ヲ祭祀スルハ天武行宮ノ名區
ヲ後世失サルカ爲ノ設ナリト云此ニ拠テハ
立坂神社ノ地ニ非スト知ヘシ然トモ頓宮ノ
旧地ハ猶考アリ江場村ノ条ニ詳ニセリ本社
ハ延喜式ニ素名郡ニ隸レリ今古郡縣ノ差アリ

リトイヘ凡本邑垂坂トハ郡界モ遠ニ遠シ然
レハ素名郡中ニ社地ノ考ヘキナシ甚踳躄也
リ孰レ旧昔ニ其地ヲ遺失ノ廢趾ナレリト憶
ヘリ假令素名郡 神社ハ教區アリトイヘ凡
其所傳ヲ失フ片探索スヘキ義ナシ又立坂ニ
社号ニ拠ル片ハ矢田ハ幡ノコトク平坦ノ地
ニハ非ルヘシ立坂垂坂訓ノ相似タルニ拠テ
定ムトイ工凡疑ナキニ非ス然凡明曆圖ニ垂
坂ノ下ニ立坂神社ト書タリ又垂坂觀音堂ノ
傍ニ鎮守山王権現ハ幡宮ノ祠アリ多留坂神
社ト滋野井中納言ノ筆扁額ヲ掲タリ然レハ
コトニ本社ヲサタメタリトシ工タリ孰レ其

真ヲ得サレハ姑ク此ニ從テ注セリ勢陽雜記
及同拾遺此ニ定テ載タリ式社案内記矢田八
幡ニ考證ノ説ニ倣ヘリ祭神モ同シ古屋草紙
及伊勢名所圖會雅字賀姫命トス其證何レノ
拠アル否安ナリ又此社地ヨリ一丁許南ニ
小山アリアマツホ山或天神酒山ト云是本邑
所産ノ麴ノ義ニ拠リテ名ク処ナルヘシ

○無坂山觀音寺 同処ニアリ天台宗本尊千
手觀音慈覺大師
作ト云開山慈覺大師ノ髮弟良源和
尚ナリ本願施主船木兵部少輔躬恒贊財ヲ捨
テ創建ス往昔ハ諸堂巍々タリシカ永禄年中
ノ兵燹ニ燒亡ノ烏有トナレリ境内ニ藥師堂

アリ奥院ニ元三大師自彫ノ木像ヲ安置ス近
邑ヨリ常ニ詣人多シ本堂伊勢順礼第二十回
番

いのちけははる久れと坂とひくらのゆゑと人々おこな

古屋草紙勢陽雜記拾遺等元三大師ハ了源和
尚作ト云慈覺大師自造凡云寺傳ハ良源ニ作
ル又彫刻モ異ナリ考ヘシ 元亨叙書曰叙良
源姓ハ木津氏近江国淺井郡人母物氏夢ニ海
中ニ坐メ日光懐ニ入ト見テ懐胎シ延喜十二
年九月三日誕生ス九歳ニメ田間ニ於テ国老
貞行良源大頂ニ當テ空中ニ雲氣ノ蓋ノサシ
覆タルヲ見ル後叡山ニ登テ早ク博学ノ名ヲ

得夕リ永観三年正月三日ニ弥陀号ヲ唱テ滅
ス年七十四源力道力勇猛ニ見ヘ夕リケレハ
自鏡ヲ把テ像ヲ写シ邪魅ヲ防ク符トス後印
行シテ世ニ傳フ永延三年慈惠大師ト謚ヲ賜
ル因曰正月三日ニ寂スルヲ以テ世俗元三
大師ト称ス叡山横川ニアル画像ハ民部卿法
眼筆ニシテ入寂ノ後其影像ヲ写サシム其夜法
眼夢中ニ其像ヲ拜ス覺テ後枕双ノ障子ニ其
影痕アリ此ヲ写ス又東塔ノ北谷ニ在ル処ノ
画像ハ慈惠大師自筆ナリ慈惠降魔ノ眉毛ヲ
画像ノ眉端ニ粘着セシム諸客此像ノ摸写ス
ルヲ乞テ守符トス其像頭上ニ牛角ノ如キ毛

アリ俗角大師ト称ス門戸ニ貼メ疫癘ヲ除
災ヲ攘フト云又小像三十三箇画クアリ是
豆大師ト俗称ス

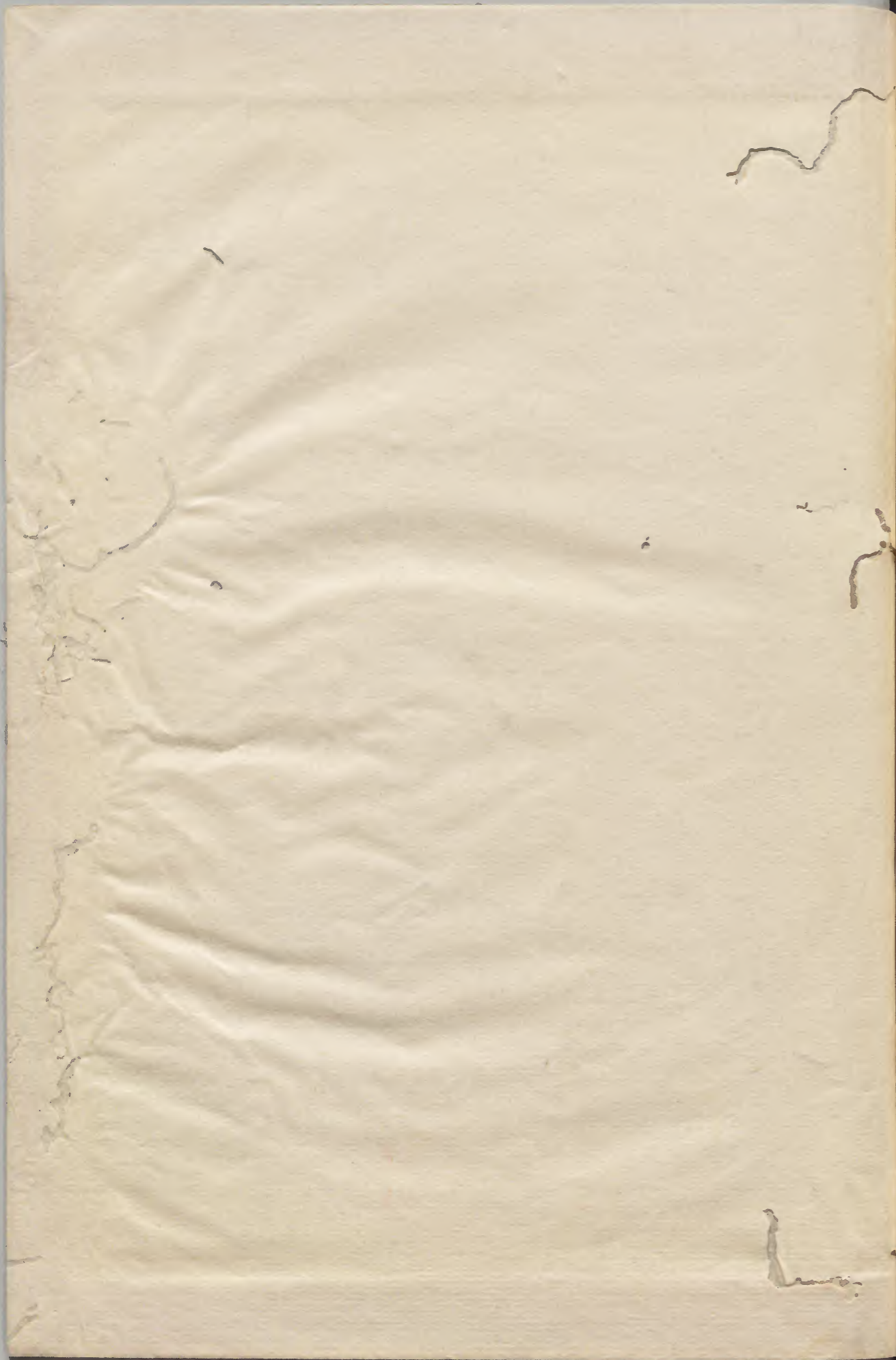
朝明川一水源ハ近江国界八峯嶽ヨリ流出テ三

重郡界千草村ノ北ニ流テ本郡竹成村ニ至リ
竹成川ト称ス此処ニシテ杉谷ヨリ注ク杉谷川
ト合シ永井村ノ北ニ折テ小嶋村ニ至リ又国
見嶽ヨリ流出テ切畠田光村ヲ經テ小島ニ至
ル一浜ト合シ保々西村市場ノ南ニ流テ下野
中里ニ至リ此処ニシテ下野山城村ヨリ注ク山
城川ト合シ西大鐘東大鐘ヨリ千代田村ニ至リ
埋繩ノ南ヲ流テ柿村松寺村ニシテ東街官道

二出ル板橋ヲ架キリ豊田高松ニ至リ南福島
 ノ南ヲ經塚田村ニ至テ東海ニ入ル又一流ア
 リ本郡大矢知山間ヨリ流出テ下宮ノ南ニ注
 キ西富田茂福村ノ間ニ至リ官道ニ出橋アリ
 富田川ト稱ス是ヨリ北村ヲ經テ富田一色ニ
 至リ東海ニ入ル又一流ハ垂坂村山間ヨリ流
 出鶴村別名ノ間ヲ流テ官道ニ出橋ヲ架羽津
 ノ内須賀ニ至テ東海ニ入ル大略大河ハ朝明
 川第一ニシテ其餘是ニ次リ小流堰埭ハ畧々此
 ニ標出セ又約々三流朝明川富田川垂坂川ヲ
 最トスヘシ朝明川ハ濶大ナリトイヘ凡常ハ
 流水淺ク赤砂ナリ夏秋ノ間洪水アリ水源ニ
 至リ村民歩涉リノ往来ス下流モ洪水ニ非レ
 ハ各歩涉ニメ至ルヘシ



勢陽五鈴遺郷音朝明郡卷之三終



此書係...
 卷之...
 紙數五拾枚
 50



